

埼玉県学校教育情報化推進計画（仮称）有識者意見聴取会（第3回）

日時 : 令和6年6月17日（月）14:00～16:00

開催方法 : オンライン会議

聴取事項 : 埼玉県学校教育情報化推進計画
・基本方針に基づく施策について

参加委員 : 益川委員（別日程）、下野戸委員（別日程）、原口委員（別日程）、山崎委員、小池委員、譜久村委員（別日程）、中川委員、城島委員、佐藤裕理委員、神田委員（代理）、曾根委員（欠席）、佐藤昌宏委員（別日程）、田中委員（別日程）

主な発言

<基本方針について>

- データの利活用だが、「個」に目が行き過ぎているように思う。実施段階では、クラス単位・学校単位・教育委員会単位で考えられると良い。また、教育データが既にあるというのは誤解である。大切なのは収集すべきデータが何であるか、今現在ないデータの存在も視野に入れたデータ収集が何より大切なことである。
- 児童生徒の情報活用能力はすぐに身に付けられるものではないので、小さいうちから繰り返し学習させていくことが大切である。
県として発達段階に応じてどの時期にどこまで子供たちにこの能力を身に付けさせればよいのか、その目安のようなものが示されると良いと思う。
- 埼玉県学力・学習状況調査について、端末の画面の大きさや端末の使用への慣れなどが結果に影響していないか心配である。誰が見てもわかる画像や様々な端末があることを想定した作問をお願いしたい。
- 高校生の個人所有端末の購入について県での費用負担や補助をお願いしたい。
- クラウドサービスの利用とあるが、現状では校務系のネットワークから学習系のネットワークへアクセスできず、非常に不便な状況である。また、校務について、普段の業務においてもクラウドサービスをもっと活用するなどしてほしい。

- 特別支援学校に通う児童生徒にとっても端末は必要なツールである。安定した通信環境が整備されることを期待したい。
- 教員向けの研修を充実することは賛成するが、重要なのはどのようにして研修で得たものを児童生徒に還元するかということだと感じている。
- 通信環境についてであるが、普通教室からはネットワークに接続できるが、特別教室は一部のみである。また端末を活用し、生徒総会を実施した際、全校生徒が一斉にネットワークに接続したため使用できない状況が生じた。事前に端末にダウンロードしておくなどの準備が必要であった。通信環境の整備は端末を活用した活動の基盤をなすもの。非常に重要である。
- 県内小中高で同じ機種に統一できると良いと思う。端末の活用について、良い実践事例があっても、特定の OS だけでしか実践できないなどもある。生徒においても、中学校において使用していた端末と、高校進学後で使用する端末とが変わることで戸惑いがあると思う。機種が統一されると一層活用が進むと思う。
- 自身の学校においては、現在の通信環境で大きな問題なく活用できている。一方で、通信環境が悪いと、活用に影響が出るのではないかと心配される。今後、オンラインでの学びやメタバースの活用などネットワークに負荷のかかる使い方が出てくるのが容易に想像される。ネットワークの不具合によって教員の指導、生徒の学びに支障が出ないようにしてほしい。
- 県で導入している教育クラウドをもっと活用したい。調査などの校務は簡単に集計することができる。校内で独自に活用している学校もあるが、ノウハウがない学校もある。
- 生成 AI に関する取組が必要と感じる。テクノロジーは日々進化しており、あらゆる場面に生成 AI が登場してきている。今後の社会を見据えると、生成 AI に関する取組は避けて通れないと思う。
- データの利活用については2つの流れがある。一つは帳票やシステムの標準化である。これについては、なかなか国から明確な方針が出てこないなかで自治体単位では難しい。他方、アプリケーションの活用など現場レ

ベルで教育データを利活用しようという流れもある。まずは後者について取り組むのが穏当ではないか。

- 生成A Iについては、効果的な活用方法について研究するべきである。
- 定期考査のデータ、模擬試験のデータ、外部委託業者が保有するデータなど、どこまでのデータを活用するかという課題はあるが、まずは現在活用の教育クラウドにおいてデータを収集していこうというのは評価できる。生徒単位で課題の進捗をリアルタイムで管理できたり、教育委員会が各学校の使い方を見たりもできる。
- 様々な生成A Iが発表されている。情報の取り扱いなど、安心して利用できるものも登場してきた。生成A Iは教員の業務を削減できる。これまで教員が行ってきた業務の一部をA Iでやっていくということ。まずは生成A Iがどんなもので、何を行えるのかを理解する必要がある。

<指標について>

- 現時点の目標はこれで良いと思う。ただし、中長期的に見たときに、より個別具体的で、小項目の目標設定を行う必要があるかと思う。
- この指標が示すI C Tの活用が何を意味しているのか分からないところがあるが、目標は100%以外にはあり得ないと思う。
- 様々な意見からもわかるように、端末を活用した教育活動は、まだ始まったばかりという状況であり、この計画を皮切りに端末の活用が一層推進されると良いと思う。子供たちはどんどん新しいことを身につけていく。子供たちの学びや意欲を損なわないよう、学校教育の情報化を推進していく必要がある。
- 基本方針3の指標であるが、これが文部科学省の調査であることは承知しているが、これは保護者が買ったかどうかということになり、指標といえるのか疑問である。
- 基本方針1・2・4の指標のところは教員に関するものである。100%目指すということであれば、教職員をサポートするための体制が必要不可

欠である。また、全校種を通じての目標設定もあるところ、市町村教育委員会への助言や情報提供も十分に行う必要があると思う。

- 全ての指標が 100%であるべきものである。100%でないことに危機感を持ってほしい。難しい側面もあると思うが、まずはこれを達成しないといけない。